

第2回 長野県ICT学び推進協議会 議事録

R3. 7. 27

学びの改革支援課

1 日時

令和3年7月27日（火）13:30～15:00

2 実施方法

Web会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、村松教授、両川公認心理士
【長野市立共和小学校】宮澤校長 【上田市立第六中学校】藤井校長
【佐久市立野沢中学校】松島校長 【飯田市立鼎中学校】斎藤校長
【佐久市立中込中学校】瀬下教諭 【諏訪清陵附属中学校】五味教諭
【須坂市教育委員会】北村様 【長野市教育委員会】中田様
【佐久市教育委員会】高橋様 【東御市教育委員会】中村様
【松本市教育委員会】小川様 【塩尻市教育委員会】高橋様
【伊那市教育委員会】竹松様 【小海町教育委員会】中島様
【喬木村教育委員会】長坂様
【義務教育課】早川学校支援幹
【北信教育事務所】田中指導主事 【東信教育事務所】池田指導主事
【中信教育事務所】白井指導主事 【南信教育事務所】中嶋指導主事
【総合教育センター】中村専門主事
【DX推進課】大江課長
【長野県自治振興組合】大塚様
【県教委】箕田主任指導主事、松坂指導主事、下條指導主事、傳田指導主事、畠山主任

4 内容

(1) 開会あいさつ

【東原特任教授】

1) GIGAスクール構想の実現に向けた国の動向・状況について

- ・文部科学省でのGIGAスクールに関する話題は都道府県の格差、市町村の格差、学校間の格差についてのものが多い。つまり差があってはいけないということ。原因を見極めて手立てをとっていく。我々の協議会がそのあたりについて何らかの対策が立てられれば。
- ・デジタル教科書は操作の共通性がないことが課題であり、共通性を進めていく打ち合わせに入っている。長野県でも実践校があるが、令和6年度導入を目標にしている。
- ・CBT、教育データの活用が行われているが、GIGA、デジタル教科書が大きな話題となっている。

【箕田主任指導主事】

2) ICT教育推進センターのこれまでの取組の説明

(資料による説明)

- ・ 前回の協議かを受けて、今年度の目標を設定。最低ラインとして子供たちが共同編集を体験できるようにしたい。市町村教委、学校に働きかけを行っていく。
- ・ 出前講座をおこなっており各教事の指導主事が学校に出向いて研修を行っている。
- ・ スタートガイド、3OS別の活用ガイドを県内全学校に配布している。
- ・ これ以外に村松先生をはじめとして信大の先生方とお悩みDXを開設した。6月に市町村教委の情報教育の担当者会を開催し、夏休み中の活用について通知を周知したところ。

(2) 協議(司会 信大 村松教授)

【松坂指導主事】

1) 調査からわかる長野県の現状

○令和3年度5月および7月の市町村教育委員会に関する調査より

(画面資料により説明)

- ・ ID, 持ち帰りの状況が、GIGA充実のキーワードになっている。
- ・ 機器の導入がほぼ終わり、活用に移っている。
- ・ クラウドIDの発行や活用も大部分の市町村で進められている。

○Yahooニュースより

- ・ 先日「GIGAスクール構想の成功には何が必要？先行事例から考える」という記事が掲載された。
- ・ 長野県の実施事例がYahooニュースや文部科学省の記事に載っている。

【東原特任教授】

- ・ IDを発行していない市町村があるのは気になるが、状況はどうか。

【松坂指導主事】

- ・ 経験不足に起因すると思われる。進めたいが、やり方がわからず困っているという状況ではないかと推察。
- ・ この辺りをセンターや信大で補助していければと考える。

【佐久市中込中 瀬下教諭】

- ・ 端末を全校生徒が使い始めた。放課後も使ってよいかという生徒からの要望があるほど。
- ・ 生徒は積極的に活用しており、1人1台端末の導入というのは大きい。
- ・ 周辺校とも連絡を密にして進めていきたい。

【長野市朝陽小 舞澤教諭】

- ・ 端末の利活用を音楽の授業で進めており、音楽の感想の共有、演奏したものの提出をしてもら

ってもいる。

- ・ただ、まだクラウド活用というところまではいっていない。

【箕田主任指導主事】

2) 目標の確認と1)にかかわって議題

○目標実現のため、①クラウドID②利活用の状況（共同編集）の状況確認について

- ・1人1台端末導入ガイドラインを作成しており、夏休み以降はクラウドの利用等が進めていけそう。協議会の委員の方と共同編集で作っていききたい（googleスライドを利用）
- ・アクセルとブレーキを盛り込んで作っていききたい。

○同時共同編集を行うための目安になるような資料（【仮】1人1台端末導入ガイドライン・機器編、学びの改革編）

3) 2)に関わって、意見交換

（市町村教育委員会や学校の現場より、クラウドIDの活用状況、共同編集に向けた利活用の状況について意見聴取を含む）

【喬木村 長坂氏】

- ・ガイドラインは教委に向けたものか、先生方に向けたものか、ターゲットは？
→学校の先生方向けと考えているが、教委でも学校にお示しいただけるものと考えている。
（箕田主任指導主事）
- ・ぱっと見の印象で文字が多いかと。もう少し簡素なほうがよい。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

- ・文字が多い。示したものをすべてやらなければならないと思ってしまう。
- ・生徒のほうが知っている場合もある。先生だから全員やらなければいけないという意識を取り除き、困ったら生徒に教えてもらうという意識くらいのほうがやりやすいのでは。

【中信教育事務所 白井指導主事】

- ・教育クラウドIDに関することが入っているが、先生方にもIDの配布を行うのかと思ってしまう。
- ・中信では小中それぞれのIDを作ろうとしていた市町村教委があった際、統一したらどうかと提案した経緯がある。クラウドID関係のボリューム落として、他の情報を入れたほうがよいのでは。

【信大 両川臨床心理士】

- ・普通学校の特別支援学級の子供たち向けに入力のカスタマイズを考えている。そのあたりも入れていただければ。
- ・先生によってレベルが違う。初心者向け、上級者向け等のレベルに応じた入口がわかるとわか

りやすい。

【佐久市中込中 瀬下教諭】

- ・情報量が多い。動画のようなものを撮影し、QRコードを入れてみては。
- ・児童・生徒の表情も交えつつ撮影すればイメージが付きやすい。編集を行ったことがある立場とするとやってみてわかることも多い。

【喬木村 長坂氏】

- ・ガイドライン中の発展期、成熟期の表は元ネタがあるのか
→H29ころから始まった文科省のIEスクールの資料を参考にしている（箕田主任指導主事）
- ・情報活用能力に関する小1から中3の年間計画を作成していたが、表の中身が古くなっており中3レベルのことを小学校中学年で達成してしまっている子供もいる。
- ・1人1台端末になったこともあり習得レベルの差が顕著になっており、表に一概に当てはめて子供たちのレベルを定義づけていくのは現在の状況では間に合わなくなっている。

【東原特任教授】

- ・表中の上位のレベルでも小学校低学年でもやっている場合もある。学年配当を外して、スタートしていったら。実際の児童生徒の同時共同編集の結果を事例で並べてみる等、順序はないのかも。
- ・事例のサンプルを入れ込んで、活動内容や意義を載せれば、イメージがわいてやりやすいのでは。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

- ・パンフを発行してからの目標・指標はあるか。
→令和4年の3月までに共同編集を体験できるようになるのが目標。（箕田主任指導主事）

【信大 村松教授】

- ・県の様々なデータを活用しつつ各教委が自身の現状を把握するというものありか。
そうすれば自身の学校の状況が見えてくる。

【信大 両川臨床心理士】

- ・校内遠隔のような遠隔でもできるような段階も示してただければ。

【信大 村松教授】

- ・ガイドラインに対する意見等は8月くらい目途でとりまとめか。

【箕田主任指導主事】

- ・その通りで、意見を踏まえた上で8月中をめどに再編集し次回の協議会に提示できれば。

4) 他県の取組について

【茨城県つくば市立みどりの学園義務教育学校派遣 山口教諭】

(学校全体の取組の様子から(クラウドID、共同編集について))

- ・協働編集の場合、アプリをどのようなものを使っていくかが重要。みどりの学園では低学年ではスタディノートを使用、高学年ではマイクロソフトのTeamsを使っている。
- ・個人のICT格差はみどりの学園でも顕著だが、生徒同士で教え合っている場合もある。長野県の場合、先生が100%わかっているものを教えているイメージがあるが、時代は待ってくれないため100%理解していなくてもとりあえずやってみるとというのが重要。
- ・先ほどのガイドラインについて、ガイドラインをすべて理解したうえで活用するのではなく、わからなかった場合のQAのように活用するようにできれば。
- ・みどりの学園ではICTを必ず使う単元というのがある。経験からすると、ICTの活用は便利。やりながら慣れていくというのが大事かと。
- ・とにかく圧倒的に子供たちがタブレットに触っている時間が多い。
- ・1年生に6年生が教えるということもやっている、子供たちが先生になっていっている。子供達は機械と必要感があればどんどん上達していく。

【東原特任教授】

- ・つくば市と長野県の校長・指導主事の違いは？

【山口教諭】

- ・長野県は子供観、教材観を大切に、単元の展開等、事前に指導案(土台)をしっかりと作った上で授業を行っている。
- ・つくば市は、ともかく実践でやっており、指導案を作ってからというより、スピード感を重視してやっている気がする。(良いか悪いかは別として)新しいこともあるし失敗することもあるが、トライ&エラーがかなり速いスパンで回っている。

【諏訪清陵附属中 五味教諭】

- ・新しいことが増える一方で、スクラップの難しさを感じている。
- ・何かをやめる、無くしていくということは何かやっているか。

【山口教諭】

- ・長野県にある重点研究部会がなく、研究は個々で行っている。
- ・それが無い分、先生たちが自主的にICT研修会等に充てている。

5) 充実した利活用に向けた取組

○信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター「教育DXお悩み相談室」

【信大 村松教授】

- ・画面にて活動内容を説明。
- ・「かるく、ゆるく」をモットーとしており、県内・県外含めて多様な人が参加してくれている。

○CBTに向けた取組の現状

【学びの改革支援課 下平指導主事】

- ・全国的な学力調査CBT化に向けた流れ、県教委の取組について画面にて資料説明。

○特別支援教育課【令和3年度の共同編集の取組について】

【特別支援教育課 傳田指導主事】

- ・長野県ICTインクルーシブ教育推進部会について画面にて資料説明。
- ・稲荷山養護学校の事例（視線入力）、松本盲学校の事例（点字データのGoogleドライブでの保存共有）を紹介。

【信大 両川臨床心理士】

- ・目標は子供たちが共同編集をするということで進めている。事例を「思い付きでやってみよう」ということで、思い付きでやってもらった事例をガイドラインのどの背景要因に当てはまるか研究し進めている。
- ・先生も生徒も楽しくやっていけることを目標に進めている。

○夏休みの教員研修の状況について

各教育事務所、（案）長野市、佐久市、塩尻市、喬木村教育委員会より

（Zoomのチャットに後日参加者に感想や連絡メールアドレスなどを記入していただくためのGoogle FormsのURLを共有）

→次回の議案とする。

（3）閉会

【義務教育課 早川学校支援幹】

- ・ガイドブック作成に当たっては多くの市町村から貴重な意見をいただいた。それらの視点を以てより良いものを練り上げていければ。
- ・6月に全校長がオンラインで会議を行い、GIGA スクール構想について理解を深めつとともに前進に向けて決意を新たにできたとの感想を多くいただいた。
- ・これから進めていく中で様々な課題が出てくると思うが、本協議会で共有し課題として議論してければ。